

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

1980 年代に生じたおごり (長い停滞の引き金に)

エズラ・ヴォーゲル (1967 年～2000 年ハーバード大学教授、著書「ジャパン・アズ・ナンバーワン」)

1. 「ジャパン・アズ・ナンバーワン」(1979 年刊) 日本語版の序文で、私は次のように書いた。「日本人も傲慢の虜になる危険性はある」。この本は実際、日本が米国を追い抜くとも世界一になるとも書いていない。米国の世論に根強くあった日本の実力を軽視する見方に対し、日本社会の強さを米国人向けにわかりやすく紹介するのが執筆の狙いだった。
2. だが強烈なタイトルに目を奪われた日本人は、序文の警告に注意を払わなかった。ある日本の財界人は当時、米国から学ぶべきことは何もない、と平然と言ってきた。1980 年代に会った別の証券会社の幹部も傲慢な対応だった。円高ドル安と大規模な金融緩和を好機に、外国で土地や株を買いあさった。
3. バブル崩壊後も、私は日本の成長力は底堅いと信じていた。今思えば、これは少し楽観的だった。不良債権処理や情報化、グローバル化への対応にこれほど手間取るとは思っていなかった。

(参考:「週刊東洋経済」2019 年 4 月 6 日号)

人事・労務について

マネジメント研修が変わってきた

出口治明 (立命館アジア太平洋大学学長)

1. グローバルな先進企業では、マネジメントに対する考え方が根本的に変わってきている、という話をよく聞くようになった。マネジメントといえば、一昔前は、ドラッカーやコトラーが定番だったが、最近では脳科学や心理学を管理者研修に組み込むケースが増えているという。なぜかといえば、付加価値は突き詰めれば、人間の脳からしか生まれないので、脳の仕組みを知らずして従業員を合理的に管理できるはずがない、ということのようだ。
2. ダイバシティー (多様性) の重要性や個性の尊重は、「普通」や「正常」とは何かを疑い、原点から考え直すことから始まる。世間の常識を根底から問い直すことだ。

(参考:「日経ビジネス」:2019 年 4 月 8 日号)

経営者のための危機管理

フェイクニュースに対抗できる力とは何か

奈良岡 聰智 (京都大学大学院教授)

1. 歴史に「if」はないとよく言われますが、あると思います。今の姿が必然、不可避だったと考えるのは正しくない。過去のある時点で、国家、社会が置かれていた状況を客観的に提示することが歴史家の役割の一つであり、それをよく吟味することで、我々は未来を見通すことができます。
2. 現在の生活や社会の在り方といったものは、歴史に規定されています。そのため現状の問題点を考え、それを変えようとするならば、歴史に立ち返る必要があります。様々な可能性があったなかで、現在があるという感覚をしっかりと持ち、現状を相対化する視点を持つこと。それが歴史観を磨くということです。これは、フェイクニュース、プロパガンダ、誇張、ねつ造といったものに対する力にもなります。

(参考:「Wedge」2019 年 5 月号)

古典に学ぶ

事は平生にある

(解説) 要するに事は平生にある。これを例すると、医師と病人との関係のごときものである。医家は必ず平常の衛生を勧めるに相違ない。ゆえに予はすべての人に、不断の勉強を望むと同時に、事物に対する平生の注意を怠らぬように心掛けることを説きたいと思うのである。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)